

## 「全鍍連」 2025年 11月号 巻頭言

全鍍連総務担当副会長 上村 芳久 (株)ユーミック 代表取締役社長)

「政治・経済の現状で思う事と青年部への期待」



今年度より全鍍連総務担当副会長を仰せつかりました四国鍍金工業組合所属の上村です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、現在政治が近年には無いほど活発に動いていると感じます。国内は後で述べるとして、すでに私たちに大きくのしかかって来つつあるトランプ関税から目を離すことが出来ません。

15%で済んだやれやれという声も聞こえますが、輸出量の低減を少しでも抑えるため 15%の一部をメーカーが肩代わりする検討もあるようで、その一端を私たちに協力という形で押し付けて来かねません。ただまだ円安域にはあるので為替差益が得られる企業はギリギリ何とかなると考えているかもしれませんが、円高に振れる要因が強くなっているのも確かな様ですので、関税要因のコストダウン要請には全鍍連や各メーカーの協力工場会等で牽制が必要ですし、省庁の指導力に期待したいと考えます。(鉄鋼・アルミ 50%は全貌が見えないので不安です)

またこの関税交渉において日本政府は対米 80 兆円投資すると表明したようです。アメリカ政府や企業の投資に日本政府が融資するのか差し上げるのか、民間企業が投資するのか不明なところも多いのですが、おそらくその一部は税金を充てるようにも思います。協議の過程で必要なだろうと理解はするので完全否定ではありませんし、アフリカへのワクチン支援での 810 億円も必要な事でしょう。

しかしながら目を転じて国内への積極投資も大事なのではないでしょうか。海外への投資はリターン時間が掛かりその範囲も限定的なことが多いですが、国内投資は流出も少なくお金が回り、時間が掛かろうともまた多寡はあれ必ず効果が広い範囲で出るものです。海外にはポンと出せて国内には原資が無い、減税などもってのほか…では前に進む気が無いのかと思ってしまう。

税歳入はここ数年増加と聞きます。私たち全鍍連組合員も苦しい中出来る限りの賃金上昇に応じておりこちらもあらゆる税の増収に寄与していますし、物価高で消費税収も伸びているでしょう。これでもまだ足りない？トランプ関税が良い政策とは思いませんが、少なくとも自国を強くしたいと考えてのものでしょう。日本も豊かになれるよう政局に紛糾ではなく政(まつりごと)に注力をお願いしたいものです。

全く話は変わりますが昨年度まで数年間総務委員会においてありがたいことに全鍍連青年部の設立に関わらせて頂きました。

何があるのかと言うと彼らの熱気に触れ、めっき業界の先を任せられる人材が豊富だと感じられたことです。設立にあたってはマイナスな意見も若干ありましたが、なんの何の戦国時代ではありませんが彼ら一国一城の主、キャラクターも様々な多士済々です。

今年度より山崎会長の施策で彼らの選抜 5 名が各委員会に配属されました。委員会を通じ各単組にその熱意を持ち帰って貰えるような活躍を期待しています。